

三重県におけるコンビニエンスストアの立地展開

水谷 倫也

本論文は三重県および四日市市を事例に、コンビニエンスストア（以下、コンビニ）の立地パターンの時系列的展開を分析した。そして、コンビニの立地展開を都市スケール（岡山市・高松市）で明らかにした荒木（2001, 2005, 2010）と比較し、その立地パターンに差異が生まれる要因を考察した。

まず、三重県においては北勢地域からコンビニの出店が始まり、続いて隣接自治体に出店が増加することで地域的な広がりを持つようになった。その結果、県スケールでの立地パターンは人口密度の高い北勢地域、自動車交通量が日に 1 万台を超える区間の道路沿線に集中していることが分かった。次に、三重県の中心都市である四日市市に対して、都市マスタープランなどからコンビニの立地地点を都心地域・都心周辺・郊外に分類し、時系列的にその立地パターンを分析した（図 1, 図 2）。

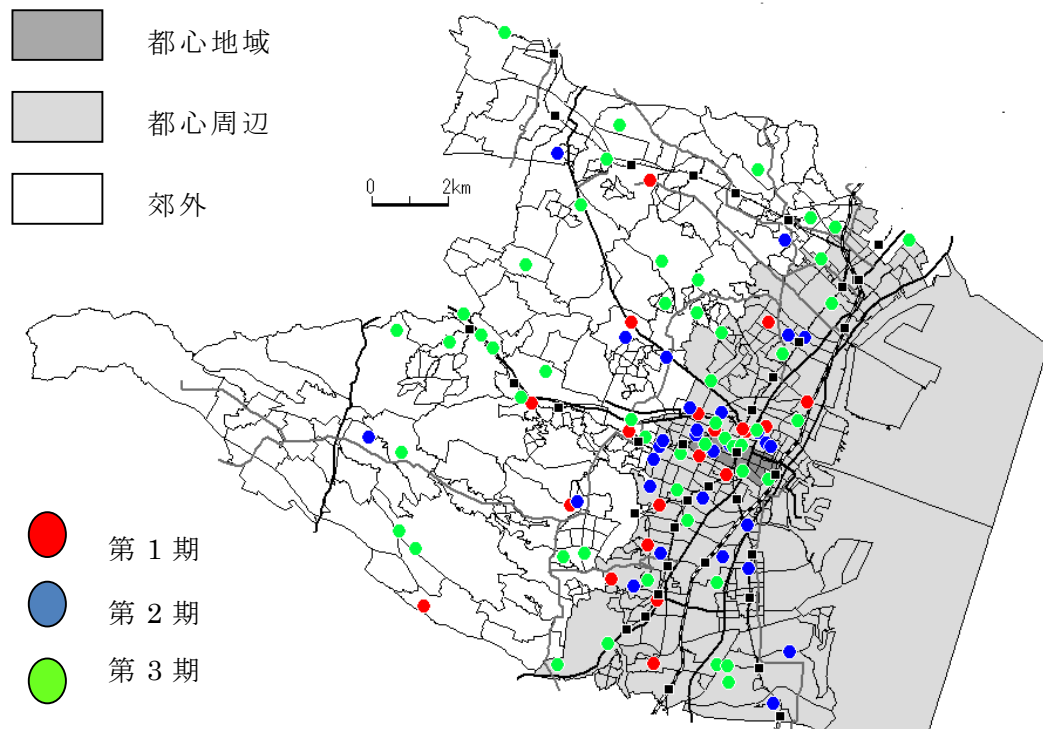


図 1 四日市市におけるコンビニエンスストアの立地展開（第 1 期～第 3 期）

出典：NTT『タウンページ』より筆者作成

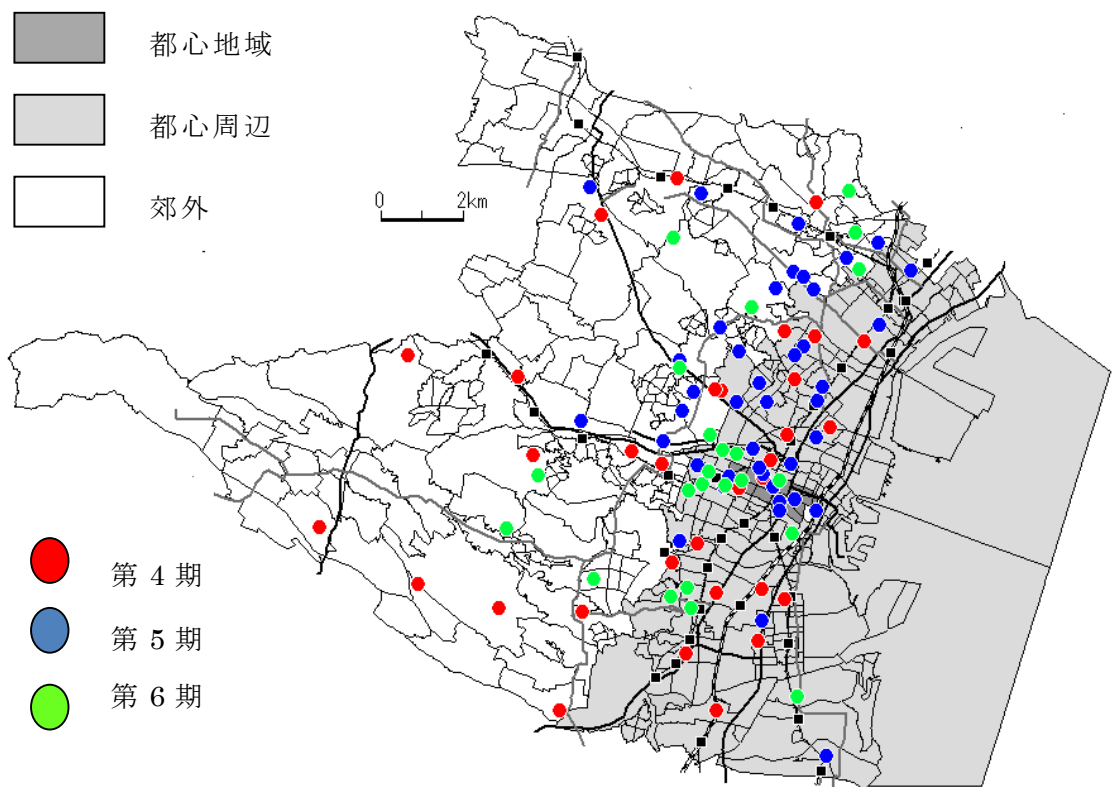


図 2 四日市市におけるコンビニエンスストアの立地展開(第 4 期～第 6 期)

出典:NTT『タウンページ』より筆者作成

それによると、四日市市のコンビニ出店は主に住宅地から開始された(第 1 期(1980 年代))。しかし第 2 期(1990 年代前半)になると住宅地への出店割合が減少し、立地地点が多様化した。第 3 期(1990 年代後半)には立地地点が郊外に向かって拡大し、続く第 4 期(2000 年代前半)にもその郊外化が継続した。しかしながら、第 5 期(2000 年代後半)になると郊外化が緩和し住宅地への再集積が起こり、第 6 期(2010 年代前半)では「都心と郊外への二方向的拡大」がみられるようになった。

以上の調査結果を荒木の研究と比較すると(図 3)、1980 年代と 1990 年代後半において顕著な差異が明らかとなった。まず 1980 年代について、岡山市と高松市に「ロードサイドへの立地指向」を指摘した荒木と、住宅地に出店が進んだ四日市市の立地パターンは明確に異なっている。また 1990 年代後半について、荒木は両市の「中心部における集中的な分布」を特徴として挙げたが、一方の四日市市では立地地点の郊外化がすでに始まっている。岡山市では 2000 年代前半に郊外化が進んだことを勘案すると、そのタイミングにずれが生じていることが明らかになった。本論

文では、それぞれの県における人口分布パターンの差異や、岡山市・高松市と四日市市が抱える人口規模ならびにコンビニ集中度の違いが、このような一連の差異を生み出した要因であると結論づけた。

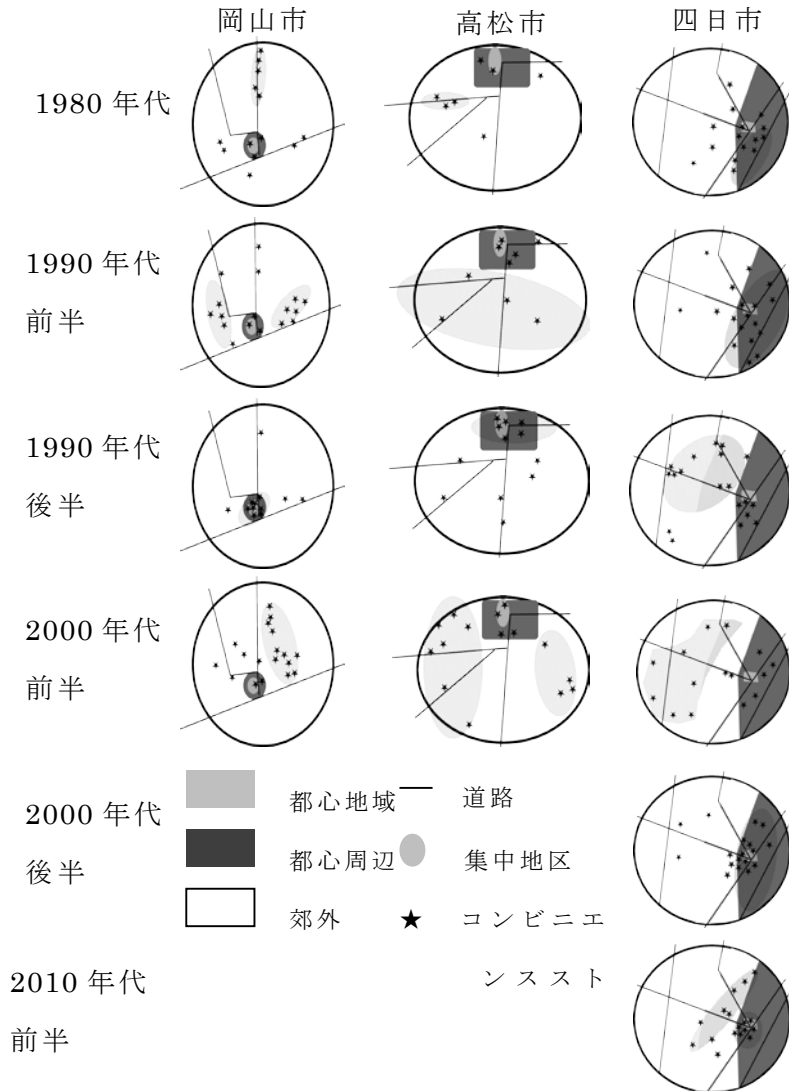


図3 コンビニエンスストアの立地展開の比較

出典：荒木(2010), NTT『タウンページ』より筆者作成

参考文献：

- 荒木俊之(2001)岡山県におけるコンビニエンスストアの立地展開. 地理科学 56(2), pp.88-107.
 荒木俊之(2005)香川県におけるコンビニエンスストアの立地展開. 地理科学 60(1), pp. 25-39.
 荒木俊之(2010)2000年代前半におけるコンビニエンスストアの立地：岡山市・高松市を事例に. 立命館地理学 22, pp.25-37.

指導教員：
 阿部亮吾
 (地域社会システム講座)